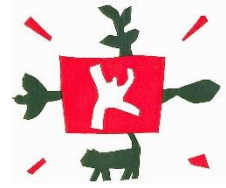




共同通信



2017年4月28日 248号(457号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 146

「淡路島の父、佃克巳牧師のこと」

たまたま西宮共同教会に立寄って、おいしいシュークリームを頂いてしまったために、原稿を書くはめになってしまった。食い意地は害悪である。その際、淡路島の父について書いてはどうかと言われ、よく考えもせず二つ返事で引き受けてしまった。しかしいざ机に向うと、身内のことはなかなか難しい。高校3年生までの18年間一緒に暮らしていたが、自分の事で精一杯で、親のことなどあまり気にかけていなかった。それから40年近くは離れて暮らしているの、ちょっと帰っても、いざ「これまでどんな人生を歩んで来られましたか」などとは面と向

って尋ね難い。たぶん、そうこうして時をいたずらに過ごして、最後には聞けなくなってしまうのかも知れない。だから、とりあえず、覚えている自分の記憶を少しまとめておくのも良いのかもしれないと思った。

父、佃克巳は、1931年に淡路島の津名郡（現在は洲本市）五色町鮎原上村で農家の長男として生まれた。下に弟一人と妹二人がいる。海水浴場でもある五色浜で有名なところだが、父の実家は海でなく山の中である。それも、ものすごい山の中である。津名の農業高校に入学したので、恐らくそのまま百姓を継ぐつもり

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

自分の人生を語ってほしい

でいたのだろう。しかし戦争が人生を変えてしまったようだ。物心ついた頃いつも夏になると聞かされたのは、高校時代の軍事教練の話だ。ある時、嫌になって山へ逃げたら、程なく見つかって教官に半殺し状態にまで殴られた。でもそれは戦争に反対だからでなく、ただただ戦争に行かされるのが怖かっただけだと、いつも言っていた。学徒動員にかり出される前に戦争が終わった。そうすると、食糧難の時代、農家の息子は有利だ。自転車に食料を積んで、町で売り歩いたと聞いた。でも、それだけではない。キリスト教との出会いがどこであったかは良く聞いていないが、その頃から志筑教会に通い始めたらしい。高校の近くだったのだろう。実家からはかなりの距離である。それを、幾つもの山を越えて自転車で毎週通ったらしい。そして、今はなき遠藤信次郎牧師から洗礼を受けた。

戦後間もないその頃の淡路島は、神戸に来ていた宣教師たちが良く来ていた。その一人、パルモア宣教師との出会いが、父をキリスト教徒どころか牧師にまで、人生の方向転換をさせた。「もう一人の父」と父は言っていた。

聞いたところでは、パルモア宣教師が淡路島の山奥の祖父宅を訪ね、父が牧師になるのを赦して欲しいと頼んだらしい。しかし、祖父母は熱心な真言宗仏教徒である。村全体がそうである。ヤソの坊主になるなら二度と家の敷居を跨ぐなど勘当されたらしい。それからどうやって、関学神学部の学費と生活費を得たのかは

聞いていない。卒業すると故郷の淡路島に戻ってきた。でも実家のある五色町でなく、そこから随分と南の三原町(市村)で伝道所を開いた。

母とはその頃の結婚だが、母は岩手県の、これまた当時としては全く山奥の摺沢村出身である。近くに柴宿教会や千厩教会がある。そんなに遠くの者同志が何処で出会って結婚したのか良く聞かれるが、仲を取り持ったのは父のクラス担任だった松村克己教授だった。松村教授の伝道旅行で岩手に行った先で母と出会った。多分一度きりで、後は手紙だけである。結婚するため弟に伴われ、母は三日もかけて淡路島に来、志筑教会で結婚式を挙げてもらった。当時を振り返って母はしょっちゅう「騙された」と言っていた。大学出の学士様だから余程の暮らしをしているのかと思ったら、借家の伝道所にミカン箱一つを机にして暮らしていて、言葉を失ったとの事。でも、当時の母には世界の果て来たようなもので、帰るに帰れない。半年間泣いて暮らしたと、母はよく言っていた。収入も殆ど無いような状態で、朝起きてみると家の入口に誰知らず野菜が置かれていて、随分救われたと母は良く言っていた。今の時代、淡路島ですら考えられない事だが、皆がおしなべて貧しかったからこそ、却ってそんなことがあったのかも知れない。富に貧ず、である。

いずれにせよ、父にとっても、同じ淡路島出身でありながら三原町市町村では異邦人である。恐らく今でも、隣村とい

うだけで基本的にはよそ者である。母に至っては、いわゆる岩手弁で言葉すら違うから、異星人に近い。しかも村始まって以来のキリスト教である。要するに二人ともに、開設したばかりの小さな伝道所でゼロからの出発だった。

小さい頃私は良く「キリストの子」と呼ばれた。イエスに子どもがあったとは聞かないが、長くちょっとした自慢話で使っていた。何の事はない。村で唯一のクリスチャン家族であるわが家は「キリストさん」と呼ばれ、その子どもだから「キリストの子」である。しかし、最近になってやっとその意味が分かった。他の子どもたちは「〇〇さんの子」と名前で呼ばれていたが、私だけ「キリストの子」だった。つまり、お前ん家はよそ者で、お前はよそ者の子どもだ、と言うことだ。ここに50年住んで、やっと居ることだけは認めてもらえるようになった、と父は良く言っていた。だから、地域との付き合いは良くも悪くもとても大事にしている。

父は私に、特別なキリスト教教育はしなかった。関学神学部を受験する時は、6巻もののマンガ聖書を買って、読めと言ったただだった。でも知らない間に、キリスト教的な考え方が身につくようになっていた。ある時、「ネズミ小僧次郎吉や怪盗ルパンみたいな義賊になって、悪い奴らから金を盗んで貧しい人に配る」と言ったら一言、「悪い奴らから物を盗むのは正しいことか」と言われ、絶句した。難しい言葉で言えば、相対的な正義に対

する、絶対的な正義である。

若い頃の父は、反骨心が旺盛だった。伝道所を開いて間もない頃中古車を買ったら、神戸の牧師から「田舎牧師のくせに贅沢な」と言われ、借家の会堂から今の場所に移った時、礼拝堂と同じ大きさの別棟の牧師館を建てたらまた「田舎牧師のくせに贅沢な」と言われ、以来絶対に大教会の牧師の世話にはならんと決意した、らしい。

それでも、地方（だけではないが）の小さな教会は大変である。当初は、母と一緒に無認可の保育所（小羊幼稚園）を開設したり、中高生の英語塾を開いたりして、何とか子ども二人を大学まで行かせた。その小羊幼稚園は、十数年前に園児が3~4名にまで減って、50周年になる前に閉じた。英語塾も、この頃は田舎でも、ノバだの公文だのブランドを掲げなければ生徒は集まらない。

昨今の少子高齢化の波は、淡路島にも大きく押し寄せ、人口は減り続けている。要するに仕事が無いのだ。どこもそうだろうが、かつては小学生から高校生まで毎週日曜日には大勢来ていた伝道所だが、今は皆無である。その中でたまに洗礼を受ける人がいても、大学に行くため神戸や大阪へと出て行きその教会員になる。父は自分の伝道所を「苗床教会」と呼んでいたが、最近「糶殻すらなくなってきた」と言う。そういう状況の中で、例えば地方と都市、また同じように地方教会と都市教会とが、これまでどんな風に繋がってきたのか。奥羽教区の邑原議長

は、東北から若者を奪いそのエネルギーを吸い取って都会は豊かになり、その若者たちが使い物にならなくなったら送り返してくると言っていた。規模は違うものの淡路島と神戸・阪神間の教会も含めた関係にも同じ事が言えるのではないか。

しかしながら父は、「地方から吸い上げて大きくなった都会の教会が、偉そうに言うな」とは言わない。理由は訊いたことがないが、多分そう言ってもまた「田舎牧師が偉そうに言うな」と言われるのがせいぜいだからかも知れない。徳川時代は徳島藩から痛めつけられ、明治になると維新政府に騙されて北海道で極寒に晒され、そういう経験から淡路の人間は自分より強い者や大きい者には黙ってしまうところがある。けれども心の中では決してそういうものに組みする事はない。

一緒にゼロから三原の「キリストさん」を築いてきた母は、医者も見放す10年に及ぶ難病に苦しんだ末、3年前の4月に天に召された。若い頃の父は短気で、母は良く泣かされていたが、最後の母の看病については、息子ながらも見事と言う他ない。晩年は自分で食べ物を口に運ぶことすら出来なくなった寝たきり状態の母の側から片時も離れようとしなかった。ちょうど母が亡くなる日に訪ねたが、その時父は過労で倒れてしまっていた程だった。父の事も心配で、母を施設か病院に入れたらどうかと言ったこともあったが、頑として聞き入れなかった。

淡路三原伝道所は今年で創立 57 周年になるが、その間教会員は 10 人を越えた

ことがない。昨年7月に父が倒れて入院し、1ヶ月ヘルプに入ったが、その時の礼拝出席者数は4人ほどだった。ある会員の方からは、佃克巳先生と1対1で礼拝する時もあり、大きな恵みを頂いていますと言われた。

大人数の教会には出来なかったが、考えてみれば、超低空飛行で半世紀以上牧会を続ける事ができるというのも、かなりのものではないか。佃克巳牧師は、50年以上の歳月をかけて、やっとゼロから1にすることが出来ただけかも知れない。しかし私には、ゼロから1を生み出す力はない。継続は力なりとも言う。入院後独り暮らしの父のところにできるだけ帰るようにしているが、病院でもスーパーの買い物でも、必ずそこでいつも誰かから声をかけられる。自分は、逆瀬川のコープによく行くが、声をかけられたことなどない。最近、大人になった卒園児たちが夏に冬に夜店やコンサートなどのため、伝道所を使わせて欲しいと申し出があつて、時々賑やかになるそうだ。

そういう力はいったいどこから来るのだろうか。不思議でならず、ぜひ知りたいて思って、来年度末で宝塚教会を辞し、淡路の実家である淡路三原伝道所に戻る決心をした。今年で父は86歳になる。きつといっぱい、まだまだ父から学ぶべきことがあるのではないかと思っている。

(宝塚教会 佃 真人)

～どろんこと太陽～2017 西宮共同幼稚園の子どもたち

ありがとうございました

就活で悩んでいた短大2年の冬。幼稚園、保育園、幼保一体化の園など就活をしていた時、いろんな園に電話をかけて見学などもしていた。当時通っていた大学の家庭支援論の先生から電話をいただき「僕の知り合いで、ちょっと紹介したい園があるんだけど」と声がかかった。私は、「ぜひ見学したいです。」と言うと、「ちょっと、今からその園を見に行かない？」に、思わず私は「え、今からですか？」。電話の1時間後、待ち合わせ場所は西宮北口駅前。紹介して頂いた園とは西宮共同幼稚園、それが初めての出会いでした。

そして、ぼっぼぐみの担任となり、最初「ぼっぼ？うん？ぼっぼって何？」が、私の最初の疑問でした。ぼっぼの他、「らった」「さんぼ」「ねっこ」「はっば」と初めて聞くクラス名。しかも「♪ぼっぼさんぼらったねっこはっばえい」という歌もある。ぼっぼの子どもたちと一緒に過ごした1年では、たくさんの出会い、経験がありました。

4月は、年長さんが製作したこいのぼりが泳いでいる津門川へはじめての一步を踏み出しました。気持ちよく泳いでいるこいのぼりを見た4月が懐かしく、年長さんに手をつないでもらい幼稚園の畑へ行きいちごの収穫を応援した日。みんな

大好きないちごをよく味わいながらいただいた5月。

運動会では、予行練習はなく前日の大人の動きを確認だけと、びっくりしましたが前日の夜、私は、翌日の運動会に向けてぼっぼの親子でおどる「夢をかなえてドラえもん」のダンスを必死に覚え、当日間違わないか不安な夜を過ごしました。本番では、緊張しながらも、私の目の前で親子で楽しんで踊っている子どもたちの姿を見て嬉しかったです。

この1年間で、初めての出会いがたくさんありました。私にとってわらべうたは衝撃で、なかでも順子先生がリードされる“わらべうた”は、自然に子どもたちを楽しませ、みんなを笑顔に。本当に、いつでも～どこでも～と感心しました。

わらべうたや歌も知らなかった1年前。教えてくれたのは、年長組の子どもたち。子どもたちが本気で歌ってくれたり、教えてくれたりしました。

後川に、沖縄のキャンプにといっぱい広がりました。

3月末をもって退職することになりましたが、子どもたちと一緒にたくさんのかたちを経験させていただき、とても学びの1年でした。気づきや反省をくり返しながら、たくさんの教えてくださったことを忘れず、次へと羽ばたいていきます。

多くの支えてくださった方々に感謝しています。一緒にお仕事をさせていただきありがとうございました。

(芦野 真友美)

よろしくおねがいます

2017年4月からぼっぼさんと毎日と共に過ごすことになりました原田絵梨です。西宮公同幼稚園との出会いは2015年の夏。その日から始まった子どもたちとの時間、子どもたちに会える日が楽しみでした。幼稚園で過ごす日々は毎日が楽しく、子どもたちの笑顔が嬉しい、そして会話は面白くてかわいい、毎日が驚きの連続でした。一緒に楽しみすぎて、「ハラダはなんで公同ズボン履いてないん？」と聞かれることが何度もありました。それも楽しかった思い出のひとつです。

生まれたのは西宮ですが、転勤族だったこともあり、子どものころはいろんな場所で過ごしました。私が幼稚園時代を過ごしたのは茨城県。家の周りは田んぼと畑、そんな場所でした。家族で歩く時の会話は「あそこにナスがあるよ！あれは何の野菜かな？」秋になると指をぐるぐるとまわしてトンボを捕まえる、夜中には起こしてもらってベランダから流れ星を見る、そんな自然の恵みと共にあった幼稚園～小学校低学年の生活でした。そんな子ども時代の楽しい思い出がよみがえったのが、西宮公同幼稚園での日々でした。西宮公同幼稚園での時間は四季折々のものだけでなく、“日々の一瞬一瞬も旬”。みんなで集まると知ると、大慌てで集まる子どもたち、そんな子どもたちと同じようにワクワクしていました。西宮の中にある自然に気づき、また様々な場所へのお出かけ、そんな時間の中で、

日々の生活が自然の恵みと共に彩られていく。そんな一瞬一瞬を子どもたちとともに過ごせることに幸せを感じています。子どもたちの時間がより一層色鮮やかになるように、そしてそんな時間をおたよりなどでお伝えできるように、大切に過ごしていきたいです。

(原田 絵梨)

今年度から西宮公同幼稚園と一緒に過ごさせていただく、西谷日向子（にしたにひなこ）です。1年間、さんぼ組を担当させていただきます。好きなことは、体を動かすこと、のんびりすることです！

公同幼稚園では、季節に合わせた食材を食べたり、わらべ歌を歌ったりすること！散歩もたくさんして、植物との出会いもたくさんあると聞きました。みんなに会う事や、幼稚園の生活が気になり、とても楽しみにしていました！散歩をよく知っている先輩の年長さん、さんぼらったさん、そんなみんなに、どんな植物や食べものがあるか教えてもらったり、一緒に発見したりしていきたいです！

体をたくさん動かし、美味しい季節の食材に出会い、たくさんの絵本にも出会いたいと思っています。いろいろなことを通して季節を感じていきたいなと思っています！

少しずつだとは思いますが、子どもたちと一緒に日々を過ごしながら、楽しく成長していきたいと思っています。

(西谷 日向子)

桜が開花し、そして春がやってきました、新学期が始まりました。春の始まる匂いが、また春が来たなと感じるので好きです。これから、新しいことに挑戦していく人たちや、新しい環境でいろんな人たちと関わりを持っていく人たちが、ほとんどであると思います。新しいことに挑戦をすることは、しんどいことや大変なことがたくさんありますが、その分新たに学ぶことも多く、充実した日々になっていくのだと思います。ドキドキとワクワク！！私も新しい第一歩を踏み出しました。はっぱ組さんの担任をさせていただきます。曾和采奈と申します。今年、神戸松蔭女子学院大学を無事に卒業して、中学校からの夢であった幼稚園の先生になることができました。私自身も幼稚園児であった時の先生が、優しく笑顔の絶えない人であったことを覚えています。そんな先生になりたいと思うようになったことがきっかけなのかもしれないです。今は、子どもたちと日々を過ごすことができるという楽しみ、期待と子どもたちと心を打ち解けあえるような関係になれるかどうかという不安などいろんな感情が入り混じっています。私が教わった先

生のように笑顔を絶やさずに子どもたちと接し、子どもたちからも笑顔を貰いそして、子どもたち一人一人とたくさんの思い出が作っていけるように私自身も楽しんで日々を過ごしていくことができたかなと思っています。これから、公同幼稚園からたくさんのことを学び、成長できる一年間にしたいです。こんな私ですが、一生懸命がんばります。

(曾和 采奈)



日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

あんなこと こんなこと

2017年3月18日(土)

新宮 晋の宇宙船 SPACESHIP

兵庫県立美術館

子ども30人、大人5人で、電車に乗り行ってきました。新宮さんとは、昨年の年長さんの時に「いちごエクスプレス」で、一緒した以来です。みんなは、その時の“いちご”のTシャツを着て美術館へ。風や水で動くモニュメントを見ながら、吸い込まれているかのように、しばらく静かでした。



2017年3月20日(月、祝)

教会と子どもセミナー ～歌って願う、語って願う、踊って願う～

甲東教会

28人の参加でした。1部には、森 宣雄先生によるミニコンサートで始まり、お昼には薪ストーブで作ったカレーをみんなで食べ、お昼からは、2部として“きむきがん”さんによる「想(SOU)」という芝居の観賞。沖縄の豊かな緑、そこに住んでいる生きものたちを大切に思う人たちの歌や芝居は迫力満点。楽しく、そしてとても温かい思いのこもった芝居に、みんな見入っていました。



2017年3月23日(木)9時～

教会学校 パン焼き

新1年生集まれ～！で、集まったのが、28人。♪パ～ン、パン、パン！それがほくらのパ～ン、パン、パン と、共同パンのうたが出てきそうな感じで、こねこね、ぺたぺたと、がんばりました。焼きあがったホカホカのパンを手にした子どもたちの笑顔は、とっても可愛かったです。



2017年3月27日(月)～28日(火)

平安荘ワークキャンプ

淡路島

5年生以上で、大学生までの7人の子どもたちと、大人6人とで行って来ました。お昼には、海でワカメを採って晩ご飯のおかずになったり、夜には順番に糸のこの機械で切ることを楽しんだり、いろんな時間を一緒に過ごしました。



2017年4月2日(日)

津門川掃除

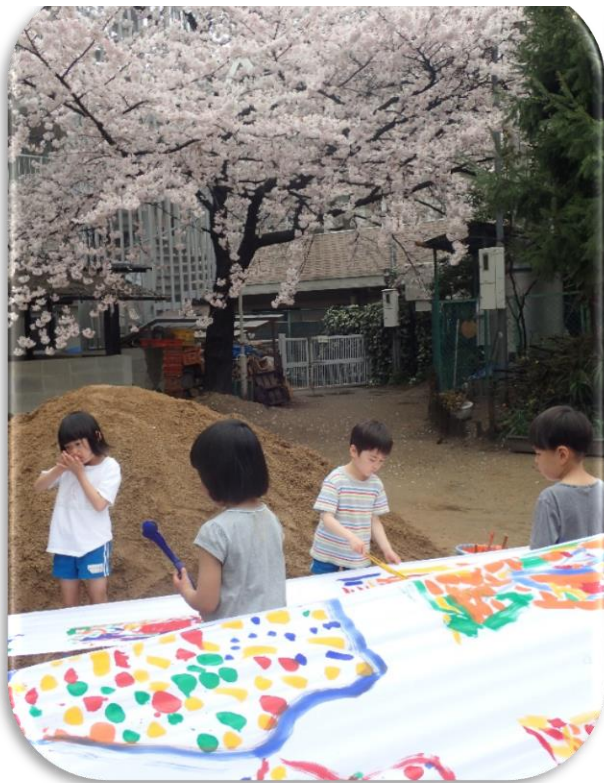
寒い寒い冬が過ぎ、やっと穏やかな気候になりました。「今日は、気持ちいいので、外で食べよう!」と、掃除後の昼食は、教会の前の枝垂れ桜の下でのお昼ごはんでした。メニューは、野菜たっぷりの焼きそばでした。



2017年4月8日(土)

こいのぼり制作

年長さんが、今年も“世界に一つのこいのぼり”を作りました。園庭に広かった白い布、そこに思い思いの色をのせていきます。今年もカラフルな素敵なこいのぼりが、でき上がりました。園庭の桜も満開です!そして、川に花開いたみんなのこいのぼり。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

寒かった3月、4月に入るや否や桜のほころびには驚かされた。あつというまの満開、そしてそして上を見上げれば桜の花の広がり、早々と聞きつけたかのひよどりの到来、うぐいすまでいい声を聞かせてくれています。すずめたちは豪快に枝の先を食いちぎっていきます。公同の園庭を語る時に欠かせないけやきの芽吹き。そしてそして足元は、何といてもプランターの中の花々。春を全身で語ってくれているようです(桜は12日の入園式の日もまだ満開)。

くすの木広場で冬を過ごしていた君子蘭も今年は少し花芽が少ないものの4月初めに表舞台に登場しました(少ないと思っていたら例年に負けないほどにありました。毎日数えること、その姿は～)。一気に春色が広がった年度初めでした。

いつだったらゆっくりできるの?とよく聞かれる幼稚園の1年。5月の連休でホッと①、次は夏休み。2学期は走りまくり、クリスマス一連行事が終わるとお正月はホッと②、そしてそして3学期は実に慌ただしい。でも子どもたちの育ちは素晴らしく、日々感心しながら働く毎日。そして卒園式にゴールです。大きな仕事は年度のまとめとなる文集の作成、もう一つは年長の個人アルバムです。アルバムは近所の写真屋さんから、文集はお届けする中でも出版社の編集の方々か

らなど、どちらも印刷屋などのプロとかを頼らずの手作業、そしてその内容にいつもなかなかのものだと賞賛をいただきます。文集はその1年の歩みのまとめとなり、アルバムに写真で表現される子どもの生活は次への指針となるもの、20枚40ページの大作です。文集をお送りした方から丁寧なお手紙をいただきました。

「子どもの生き生きした姿や家族の方の愛情の深さの一つ一つ、関わった人の思いが伝わってきます。それとは別に子どもを見守り続けた先生方の大体は、黒子のようにひっそり後ろにかくれておられるのですがお仕事ぶりがよく読み取れて心動かされます。感謝されようとか微塵も思っておられないでしょうが、何と立派な～」。長く高校の教師をされ今はおばあちゃん、そんな方からのことばでした。客観的に見ていただくことはとても力になります。

子どもの成長が、進んで止まってぶつかって戻ってまた～というふうには繰り返していくように、仕事も思考と試行を重ね、評価されてはまた進み、でも反省や検討などの繰り返し、それを話し、書き、時にはむなしさを覚え沈んだりもしながら、また今年もでしょうか。

4月、留まることなく繰り返してきた「4月」を思います。

わたしは、最初から保育の道が示されていたわけではなく、何度も躓きながら、でもいつしか積み重なっていました。当時保母と言われていた仕事にとったの

はその資格が国家試験で取得できるよと教えてくれた先輩の勧めで。教会学校のリーダーをしていたこともあり、お話をしたりするのはできる、楽譜は読める、ピアノやコーリューブングンは不得手ではない、勉強は嫌いではないなどなど。8科目の中のいくつか特に難しい福祉や実技などの科目などを先取りして、保育資格なるものをいただいてのスタートでした。間もなく50年を数えようとしています。今でもすぐに口に出てくるのが♪わたしはねこのこねこのこ～の手遊び。何もできないと嘆いていないで教会学校のリーダーの先輩のところに行って教えてもらったり。で、今思うに、いわゆる保育科などの出身でないことが幸いしたか、子どもと手探りしながら前へ進む、わたしはここまでできるからあんたたちおいでよというふうにはならなかったように思うのです。

散歩はその最たるものです。「あそこ行ってみたいね」、だから一緒に歩いてみようかという、「教える」からは大きく離れた時間でした。また最初の保育園で素敵な絵本に出会えたのはほんとに大きかった。今も支えられている財産です。絵本を通して人に出会い、人を通して絵本の世界が広がり、とにかく素敵な時間が降り積もっていきました。今も大事にされている絵本そのものが私の手探りの中に次々発行されていく、その歩みに同道するような出会いだったことも何よりでした。

わらべうたやその遊びには1980年に

出会います。これがほんとにここまでわたしの力になってくれるとは。

3種の神器かもしれません。散歩の世界はそのあとの自然との交わりにつながっていくし、大事な「食べる」はこの3つにしっかりつながっているし。

子どもたちとの出会いによる財産はもう数えようがありません。

そこで子どもの名前を覚えている、いろいろ思い出がある、会えばとどまるころなくしゃべると言った図がこの春もいっぱいにありました。そのたびに「いのちがけの毎日だったからね、覚えてるのは当然よ」とハナタカさん。しかし覚えてない人が現れたらどうしようとちょっと心配もあるのですが。

そんないろんな周辺からのいただきもの満載での日々、子どもとの出会いからの学び、それらがあって今がでしょうか。ずいぶん年を重ねたのに何かあまり年齢を感じない、気づきの広がり、そこからの前進、楽しんでます。いつまでも覚えていて、しつこくて～のわたし、失敗談もしっかり温存されています。あんなことあったな、厚かましくもああいうことできたもんだなど、思い出してはそのことを活かしたいとも思っています。はじめて勤めた保育園が今年50周年とか。こんな「ひよっこ」ありがとうございました！とそれですむわけではないけれど、その社会福祉法人への寄付をの昨年でした。

石垣りんさんの文で「待つこと」について書いたものがあります。待つという

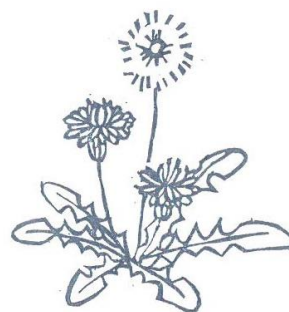
のは、待つことの姿勢もある、ただ待つだけでなく、主体的な待ちというか、待つ意味を持っているから、だから待つことと届くこととがかみ合うそんなことかなと感じさせられています。

詩人の石垣さんは詩を書くことも待つことのひとつだと。いつも何かの訪れがあって、待つ用意をしていたからできたもの。偉大な詩人のことばを借りると、わたしもちゃんと待っているから、どうして出会ったのと聞かれると傲慢にも「向うからやってきた」と答えることができているのかもしれない。そうしてモノに人に出会ってきました。加えて大事なものはそれを必ず新たな方向につないで出来たことです。

「こうぞう版行動報告書」

この2年ほど病院でのリハビリには行っていません。病院が変わり（でも主治医は変わっていない）、リハビリの継続がなくなったためです。それによって悪影響が出るようになったのも事実です。介助にきてもらっている NPO 法人かめのすけから提案がありました。週 2～3 回の入浴時 30 分延長してストレッチしてくれるようになりました。体の固さは実感していましたが、してもらったあとの足の伸びが違うのです。それに体の傾き（筋力低下で左に傾く）が気になるので、ありがたいです。

（下平 浩三）



教会の火曜日 10時から12時 於：西宮共同教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでもみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

カリフォルニアに住み始めて早3年半が経ちました。ここ数年では今まであまり悩んだことのない種類の悩みにもぶち当たって来たように思います。

私たちがアメリカに滞在するためには、「ビザ」という滞在許可書が必要で、私たちのビザの期限は来年夏で切れてしまいます。一度延長申請をしていることもあり、それ以上はビザの延長はできません。教会でもビザについて話し合いが持たれ、今後、夫の勤めている教会の日語部（日本語礼拝）はどのような判断をするのか、また私たち自身もどのような判断をしていくのか、またウェスレー教会全体としてはどうしていきたいのかなど話し合いが持たれて来ました。

ビザが切れるに当たって夫がアメリカに滞在し続ける場合は、「永住権」取得が必要になり、それには多額の費用がかかります。その判断をどうするか、私たちが帰国する場合は、日本からまた新しく牧師を招くのか、または日本語部を閉じて英語部と合同にするのかなど、様々な選択肢を一度に考えなくてはいけない時期になりました。

予測不可能な未来のことを今考え、決断しなくてはいけないというのは私たち夫婦にとってはかなりきつい作業で、来年でビザが切れるから帰国、という判断もすぐに出来ない現状、少しずつではあ

るけれども新しい方々が集い始めている日本語部を閉めるという判断もできかねる現状、だからと言ってあと10年私たちがアメリカにいれるのかと言われると答えが出ないという点で永住権取得に踏み切れない現状、そのような様々な現実の事柄がいつべんに押し寄せてくるようで、正直私自身は考えが煮詰まり過ぎてしまいました。

特に、永住権取得については私たちの意思も尊重されるということでしたが、「本当にアメリカで長く過ごすことができるのだろうか」という不安感が、この数ヶ月、私たち夫婦に常について回って来ていました。永住権取得にも時間がかかると思いますし、多額の費用を出してその権利を取得した後に、やはり早々に帰国できないだろうという思いもありました。だからと言ってこんなにも「違う」と感じる文化の違う場所に本当に長くいられるのだろうか・・・という不安が正直一番大きかったからです。

私自身は、この数年、言葉の壁、また文化の違いに戸惑うことが多く、「友情」一つをとっても今までに経験したことのない「友情感の違い」に戸惑ったり、日本では自然と感じ取ってもらっていた暗黙の了解のようなものを全く読み取ってもらえないことへのジレンマ、また良かれと思ってしていることが相手を不愉快にさせてしまうことなど、言葉や文化が同じであっても難しい人間関係に必要な

コミュニケーションがあまりに違う環境の中で全く自分の理解を超えて理解できない状況に陥ってしまうことが多々ありました。そんな違いをなんとか埋めよう、こちらの文化に馴染もうと頑張れば頑張るほど息がつまる場面がたくさんありました。そんな中で「永住」という響きさえおそろしく感じてしまっている自分がいました。

そんな時に、アメリカの市民権を取得し、すでに「アメリカ人」としてこちらで生きておられる日本出身の方とお話をする機会がありました。その方は私に、「違いを埋めようとするからダメなんだよ。クラゲって、漢字でどう書くか知ってる？『海月』って書くんだよ。素敵だよ、海の月なんて。英語では何て言うと思う？『ジェリーフィッシュ』だよ。見た目そのままだよー！こんなにも違うんだよ。だからいいんだよ」と言われました。あ、ぐにゃぐにゃしたゼリーみたいな魚・・・ほんと見た目そのままだなあ。海月とえらい違いだな。と思いましたが、その話を聞いた後から、違いというものがあって、それが違うからこそどれだけ素晴らしいものなのかということに少し気がつけたような気がしました。違いを埋めよう埋めようと努力して息が詰まっていた自分がいたことにも気がつかされました。

今は、ビザが後一年で切れてしまうということで永住権取得の作業を進めています。いろんな人種の中で、いろんな文化の中で自分を改めて見つめる時、日本

という国を見つめる時が与えられています。

(山本 知恵)

名護ぬ七曲(55)

「復帰」後の沖縄県政 8

春です。教会では復活祭の季節ですね。教会じゃなくても春は「さくら祭り」や「パンまつり」でみんな大忙し。ウチにも確か例の“白いお皿”が何枚かあったと思うのですが...どこにいったかな？ ちなみに沖縄で製パン業大手と言えばやはり「ぐしけんパン」(株式会社ぐしけん)と「オキコパン」(オキコ株式会社)の二大巨頭でしょうか。どこのスーパーでも必ず目にする沖縄の有名パンメーカーです。「第一パン」もあったかな。でもウチがよく買うパンは近所の「きしもとパン」か、そのちょい先の「パンチョリーナ」。いずれも個人事業のベーカリーで、少々割高ではあるのですが、近いし歩いて買いに行けるし、それにやっぱり美味しい。そして堅い。欲張って大きな口で齧り付くと怪我をします。

今日はもうこのまま名護のお祭り関連のお話で行っちゃいましょうね。「沖縄県政」のお話はちょっと今回はお休みということで...▼さてお祭りと言えば、いつも行く伊差川のガソリンスタンドが今年も恒例の「タイヤ祭り」をやっております。

沖縄はあまり路面凍結とかないと思うので、季節ごとにタイヤを履き替えたりすることはないと思うのですが、それでも春とか秋によくガソリンスタンドや用品店で「タイヤ祭り」をやっているのを見かけます。私はタイヤは換えなかったけど、さっきそのガソリンスタンドで給油したら、サービスで玉子(6個入パック)をくれましたよ。明後日イースターなのでちょうどよかったかも。聞けば毎週金曜日に玉子のサービスをやるとのようです。知らんやった▼「さくら祭り」に関しましては、名護では毎年1月の末頃かな。沖縄島では北部から南に向けてだんだん桜前線が南下します。寒緋桜という種類の桜の花の開花時期に合わせて開催されますので、それがいつも1月の終わり頃。なのでとても寒いです。そして多分軍関係の人たちだと思うんだけど家族連れのアメリカーが多い。観光協会が米軍向けにご招待するのでしょうかねきっと。“トモダチ”ですから。今年はウチの娘も名護高校の放送部員として、案内放送のお手伝いに駆り出されてたようです。私もバイトの関係の人に誘われて何回か見に行ったことがあるのですが、寒いし人多いし、もういいかな〜て感じ▼ちょうど今頃の季節(4月)だと沖縄では各地で「清明祭」(シーミー)があつてははずです。大北区の今年の「清明祭」は4月9日でした。区で何か催しがあるわけではないのですが、みんなそれぞれ各家庭で親戚一同が集まってお墓参りをする的なお祭りだそうです。お墓掃除をして、日除けのテン

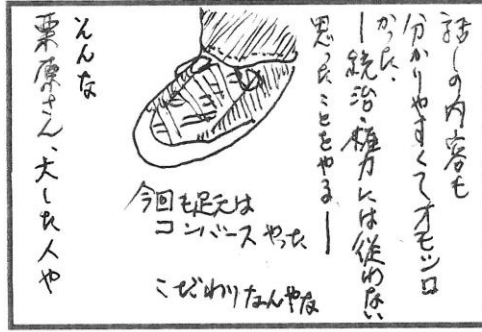
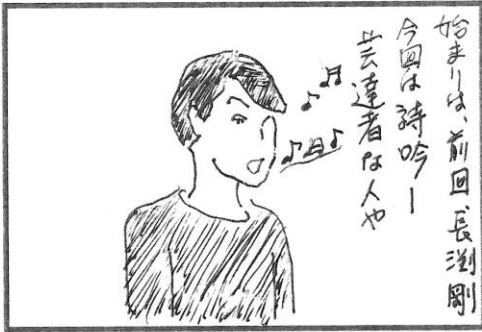
トを立てて(お墓にテント張る用の金属性のフックがついてる)、それからご馳走を囲んでご先祖様と一緒に墓前でひと時を過ごします。ピクニックみたいで楽しそう！でもよく準備が大変って言います。伝統やご先祖様は勿論大切にしなければならぬのだけれども、でも「ご馳走やら準備するとは大概“女”なんよ〜」と聞きます。私は余所の人間なので、その辺りのことについては「う〜んそうなんや〜」としか言えないのですが...▼7月の終わり頃ともなりますと、名護市商工会青年部によります指揮のもと、漁港で毎年「名護夏祭り」が開催されます。「ビール祭り」とも称されておりますが、実は私一度も行ったことがありません。ウチの子(当時中2)が2年前に行って獲ってきた金魚すくいの金魚たちが居て、私は家でそのお世話係をさせられています。どんどんどんどん大きくなって、なんか金魚って言うより...フナ？ かわいいけど水槽の掃除が面倒。

あと学校や区の体育祭とか、名桜大学の学祭とか、愛楽園の夏祭り(去年の沖縄キャンプで行きましたね)とか、他にも色々あると思うのですが、また機会があればまとめてレポートすることにしましょうね。では又！

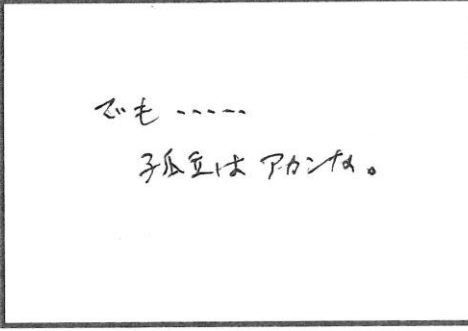
(羽柴 禎)



栗原 康(やし)さん、語る



一人花見 ♡



2017年5月 西宮公会教会カレンダー

曜日	教会礼拝堂	集會堂	幼稚園園舎	アートギャラリー	2F和室	3F和室	3F洋室	その他
1 月	8時30分～ 早天祈禱会							12時～ 日しきたりアンパク作製
2 火		11時～しきたりて、あつたきやう、集うてあそぶ	9時～ 野嵐市					
3 水	書道記念日							
4 木	みどりの日							
5 金	こどもの日							
6 土								
7 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						12時～ 川そらじ
8 月								
9 火		11時～ オペラは聖書を題材とした音楽会						
10 水				9時～ ききるん(誕生日バズル)	園芸 お母さんぐま	母の会	14時～ ギター教室	
11 木	13時～ コーラス			9時～ ききるん(誕生日バズル)	文庫	母の会	園芸	
12 金		19時～ 関西神学塾 講師: 藤村弘也		9時～ ききるんの会	紙芝居	母の会		
13 土								
14 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						
15 月								
16 火		10時～ 読書会	9時～ 野嵐市					
17 水					園芸 お母さんぐま	母の会	14時～ ギター教室	
18 木				14時30分～ 日しきたり海遊館定期役員会	文庫	母の会	園芸	
19 金		19時～ 関西神学塾 講師: 手島勲夫		9時～ ききるんの会	紙芝居	母の会	園芸	
20 土								
21 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						
22 月								
23 火		10時～ 社会のこと、世界のこ						
24 水					園芸 お母さんぐま	母の会	14時～ ギター教室	
25 木	13時～ コーラス				文庫	母の会	園芸	
26 金		19時～ 関西神学塾 講師: 岩野祐介		9時～ ききるんの会	紙芝居	母の会		
27 土								
28 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						
29 月								
30 火								
31 水					園芸 お母さんぐま	母の会	14時～ ギター教室	

MEMO
次回、カレンダー会議日程 2017年 5月16日(火) 9時～

- 教会**
- 聖日礼拝(キリスト教)毎週日曜日にやらう礼拝。共に賛歌を歌い、共に読経を聞き、共に祈る時間をもち、
 - 祈禱会(毎月第1日曜日の午前、教会分科会を運営する教会和会や選ばれた委員の会談、)
 - 聖書研究会(毎月第1、第3日曜日の午後7時から行なわれる聖書の勉強会、)
 - 女性の会(教会の女性の集まり、)
 - 「つづくと聖書を研んでみませんか(毎月第2火曜日に行なわれる聖書の勉強会、聖書や経典など、身近な題材を通して聖書に親しみ入り、)
- 教会学校**…教会の礼拝の前に行なわれる子ども礼拝と、子どもたちの活動。
- 教会学校**…教師、主任、1年生、児童、キャンプ、その他の特別活動。
- 西宮北口伝道所**…西宮分科教会の隣りに設置し、課題を随時受け、夜のセンターとする伝道所。
- 児童会**…有償部センター運営委員会、読書会
- 幼稚園**…新設法人西宮分科教会付属の幼稚園
- 役員会**…母の会、お母さんぐまの会、紙芝居サークル、園芸サークル、海遊サークル、公園文庫
- 関西神学塾**
- 日しきたり委員会**…福音伝道員(日しきたり)の育成、西宮分科教会、幼稚園もその働きに参加している。
- 福音伝道員会**…福音伝道員(福音伝道員)の育成、日しきたり委員会の働き、その他地域活動
- アートギャラリー**…西宮分科教会創立50年の一周年記念「アートスペース」子ども展を開催「アート」がテーマの展示を開催している。
- アートギャラリー運営委員会**…事務局、事務局、事務局、事務局
- 分科会**
- 大野ギター教室
- NPO法人人と人と自然をつなぐ会**

今月の言葉

チュールリップ 花言葉「思いやり」

新年度、新しい環境に戸惑っている時のちょっとした思いやりの一言を大切に。

桜 花言葉「精神美」

華やかな中にも肅々とした雰囲気を持つように

今月の聖書の言葉

私たちがカレンダーを担当します

桑田るみ(母の会)
金澤法子(NPO法人人と人と自然をつなぐ会)
(今月の担当「おかあさんぐま」)

このカレンダーは毎月25日に発行します

津門川

武庫川から、取水した水が仁川をくぐり上田市、門戸、西宮北口、今津を経て、今津灯台付近で、海に流れ込んでいるのが、津門川。山陽新幹線工事で湧き出た六甲山の地下水が、阪急門戸駅付近で合流している為、年間を通し水量、水質、水温が保たれているため、阪神間では最も多くの川魚が生息している。夏から、秋にかけ、瀬戸内海から例年たくさんのアユが遡上している。

津門川の川魚

こい、銀ブナが泳ぎ、夕方から夜にかけ、なまずが泳ぎ出す。アユの他、年間を通して、カワムツ、オイカワなどが泳ぎ、たまに川ガニやカメも泳いでいる。また阪急神戸線より少し北に設けられた川の段差まで、ボラが上がってくる。

津門川の水鳥

代表的なサギ類（オオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ）が、川魚を求めて集まり、水中遊泳を得意とするカワウも獲物を狙っている。小型の野鳥（ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイなど）そして稀に、カワセミにも出会える。水鳥たちは、津門川の豊かな川魚を求めて集まってくる。

津門川の水草、野草

きれいな水の津門川では、外来種とは言え、たくさんのオオカナダモが川底に広がりカモたちが口ばしを突っ込んでいる。夏から秋にかけてオオカナダモは、水面にぼっかり小さな白い花を咲かせている。ただし、繁殖し過ぎる為、川掃除の際に“除草”している。

津門川の古いタイプの石垣はコンクリートで固めていない為、隙間にたまった土に、200種を超える（と言われている）野草が育っている。石垣の隙間の条件によって、タンポポは大小それぞれの表情で楽しませてくれている。フヨウやムラサキなども、しぶとく育って花や実をつけている。

津門川川掃除

22年前の兵庫県南部大地震の後、地元商店街、自治会などの呼びかけで始まったのが津門川川掃除。

毎月の第1日曜の午後12時より、老若男女が集まって、川の中、土手、道路で声を掛け合ってする川掃除。川掃除の後、近くの幼稚園の庭での交流会が楽しい。

～ つとがわ・あれこれ ～

ご承知のように沖縄県、名護市辺野古で新米軍基地建設、東村高江での米軍ヘリパッド建設に強く抗議する沖縄の人たちを、安倍政治は他府県から大量の機動隊員を送り込み、有無を言わず抑え込んできました。沖縄で戦争の惨禍を生きてきた人たちが、新たな戦争の基地を作らせない強い意志で始まったのが座り込みです。そんな沖縄の人たちを力づくで抑え込むのは安倍政治による政治弾圧そのものです。

しかし、弾圧がどんなに厳しくても、沖縄の人たち

は非暴力にひるむことなく、激しく座り込んできました。

そうして座り込んできた人たちの逮捕・拘束が相次ぎ、現場で座り込む人たちの先頭に立ってきた山城博治さんの裁判が始まっています。“微罪”であるにもかかわらず、150日にも及ぶ長期拘留が示すように、それは沖縄でしか起こり得ないことに対する安倍政治による沖縄の人たちへの“政治弾圧”です。“微罪”を巡って争われることになる裁判は、そのまま安倍政

治による沖縄と沖縄の人たちに対する政治弾圧を明らかにすることになります。

沖縄・名護／兵庫・西宮共同共生行動プロジェクトは、辺野古・高江そして、山城博治さんたちの逮捕・拘留に抗議して、微力ですが共同共生することで支援してきましたが、始まっている裁判にも可能な限り人や資金を送り、共同共生行動を始めています。

尚、資金については「沖縄、山原の森で伐採された生きものたちの命の木（イタジイ、イジュ、リュウキュウマツ）を使い、「キジムナーを抱くジュゴン」（組み木）を製作・販売し、資金のねん出に取り組んでいます。

尚、山城博治さんたちの第2回裁判は、4月17日5月7日は、第3回の裁判が予定されており、一人の派遣が決まっています。その報告と合わせて辺野古の現状などについて緊急報告も予定しています。

(S)

ゴールデンウィークは、約半年ぶりに西宮へ帰る予定です。昨年の公同まつりの時以来になります。年末年始は帰れなかったので、ゴールデンウィークに〜と決めていました。一週間の予定ですが、まず西宮へ、そして淡路島で一日遊び、主人の実家の愛媛へ。ゆっくりできそうで、移動が多い為なかなかハードな一週間になりそうです。

電車に乗るのが久しぶりだな〜、梅田とかにも行きたいな〜と色々考えていますが、今回は難しいかもしれません。帰省中に妹の誕生日があるので、ツマガリのケーキを食べるのが楽しみの一つです。

(C)

窓の外は本当にはるさめのような春の雨。三日ほど続いたそんな雨がちの天気のと、久しぶりに晴れて、仁川沿いを駅まで歩く道中、石で固めた土手の隙間からスギナがいっぱい出ている。出遅れたか…と思いつつよく見たら、ありました、ツクシ。今年もお目にかかることができました。毎年少ししか見つからないので、代わりにスギナを少し摘んで帰ります。ビザトーストに載せてうまい具合に焦げ気味に焼けるとパリパリしておいしい。

新聞記事で初めて知って林京子の長崎原爆手記ともいえる41年前の芥川賞受賞作を読んでいます。被爆が被曝に変わって降りかかってきた今。

(Y)

また悩みの春がやってきました。毎年、毎年…。まず空、海、陸の生きものを一つずつ、ドーム形にはめ込みます。一匹、二匹まではすんなり入ることも多いのですが、最後の枠が一体何になるのかに、すごく時間がかかります。変に時間がとられる場合は、もうリセットの方が早かったりします。キーワードになる生きものを何するかを決めて取り掛かりますが、今年は“すずめ”でした。まっすぐ向くすずめ、横向くすずめ。さあ、どうしましょう。何とでもなるのかもしれませんが、本当に難しい。ついで、結局仕上がったものを、おこがましくも何と組み木デザイナーの黒さんに添削をお願いします。3月ごろに「そろそろ出来た？」というお手紙を頂いていたにもかかわらず、ギリギリになってしまって、申し訳なく思っていますが、返ってきたお手紙には、なかなか厳しいコメントが。まだまだ勉強ですね。これからも、がんばります！

(K)

科研というものが存在することは知っていた。日本学術振興会による科学研究の奨励金。手の届かない世界かと思っていたら研究機関に所属していない幼稚園などで働いている人も申請可能な奨励金のお知らせを目にした。ここからの時間で思い出すだけに感動もの。10月1日付のお知らせ、目にしたのが半ば過ぎ。科研をよく知っている方に相談、「やってみたら。」とところでぼつぼつやらないと」の助言に「運動会と公同まつりが終わらないと」と傲慢な返事。そしてようやく取り掛かりはじめた。でも必死になったのは、西北活性化協議会の10周年の集まりが11月の終わりに持たれたのですが、それが終わってから。しかし、いろんな人がいらしてくださってこそその申請。人という財産をしみじみ思います。

そもそも仕事をするということがここまでこれたのも多くの人たちに囲まれてきてこそその賜物。そんなことを思いつつ次なる歩みをと願っています。

研究はとんと好きでないけれど、そんな人たちがいたこと、だからできてきたことは何とか形に残したい、そうも願っています。そう！それで採択されたのです。

(J)

カット (A・T)

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

5月12日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む」(49)

5月19日(金) 手島勲矢先生「トーラー解釈」(11)

5月26日(金) 岩野祐介先生「内村鑑三」(42)